



2021-2022年度主題
 国際会長 キム・サンチエ(KR)
 “Heal the World with Love and Dignity”
 アジア太平洋地域会長 大野 勉 (JP/神戸ポートクラブ)
 “Think for the next generation”
 東日本区理事 大久保知宏 (宇都宮クラブ)
 「100年を超えて変革しよう」
 湘南・沖縄部長 若木 一美 (横浜とつかクラブ)
 「咲かそう 人の輪」
 クラブ会長 辻 剛
 「弱者に寄り添う愛と奉仕の実践」
 スローガン：「生涯現役」で楽しいクラブライフを！

2021-2022 クラブ役員

会長	辻 剛
副会長	林 茂博
書記	鈴木 茂
会計	横田 孝久

今月の聖句

「希望の源である神が、信仰によって
 得られるあらゆる喜びと平和とで
 あなたがたを満ちし、
 聖霊の力によって希望に
 満ちあふれさせてくださるように」
 ローマ15・13

6月本例会

日時 6月24日(金) 17:00～
 場所 かけはし都筑
 司会 今城高之 受付 横田孝久

=プログラム=

- 1.開会点鐘 会長
- 2.ワイズソング・ワイスの信条 唱和
- 3.今月の聖句・祈祷 相賀先生
- 4.ゲスト・ビジター紹介
- 5.会長挨拶
- 6.入会式
 新入会者：大野君枝さん
 立会人：湘南・沖縄部長
 若木一美さん
- 7.審議・報告・連絡事項
- 8.YMCA報告
- 9.Happy Birthday
 横田孝久さん (6/10)
 大野君枝さん (6/21)
- 10.アピール
- 11.閉会点鐘 会長

《巻頭メッセージ》

コロナの中での読書の楽しみ

鈴木 恭子

梅 雨空の下、いまわが家の狭い庭では白百合が
 大輪の花を付けています。

最近コロナの感染者が少しずつ減り始め、TKB*では
 再び保育園と老人ホームの皆さんに送るお誕生日カード
 作りが始まりました。窓を開けマスクをしての作業ですが、
 お仲間と集まる楽しさを改めて感じています。

私には他にも嬉しいことがありました。昨年末、長年お
 世話になっている眼科で白内障の手術をして頂きました。眼帯を外した時の景
 色の明るさに驚き、裸眼でも文庫本が読めることに感動しました。コロナ禍で
 ゆっくり読書が出来る今、ずっと昔のことを懐かしく思い出しました。

私が疎開した信州・松本の小学校のクラスには図書が沢山あり、冬の寒い
 日は皆で薪ストーブを囲んで本を読んでいた。私は「小公子」、「小公女」、
 「クオレ」などを夢中になって読みました。

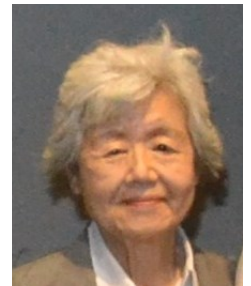
その後、中学に入ってから「大地」、「車輪の下」、「二都物語」などを読み
 ましたが、内容はあまり覚えていません。

結婚後の育児、度重なる引っ越し、親の介護が終わった後は、ゆっくりとアガ
 サクリスティーの推理小説が面白くて何冊か読みました。でも歳を重ね、登場人
 物の名前が覚えられず、字も見にくく諦めていました。

コロナの中、この度の手術で文庫本が読めるようになったのはとても嬉しいこと
 です。最初に読んだのは、最近発行されたばかりのヘンリ・ナウエン著「死を友と
 して生きる」(日本キリスト教出版局)という本で、牧師をしている娘婿からプ
 レゼントされたのですが、大変感慨深く読みました。その後は今の作家の作品が
 読みたくて、読書好きの友人から借りて読んだ原田マハの本が好きになりました。
 原田マハは早稲田大学の美術史科を卒業した後、国内での美術館設立
 にかかわり、海外の美術館にも勤務していました。書かれた小説には、沢山の
 文献に基づく画家や陶芸家を主人公にしたものが多くあります。読書後は美術
 館に行きたくなりました。その他、人は挫折しても何度でも立ち上げられる力を秘
 めているという人生の再生をテーマにした希望にあふれる小説もあります。

今まで私は「たゆたれどしずまず」、「いきるぼくら」、「さいはての彼女」、「デトロ
 イト美術館展の奇跡」、「リーチ先生」、「楽園のカンヴァス」を読み、今は「暗幕
 のゲルニカ」を楽しんでいます。 (完)

(* TKB : Tsuzuki Kawaii Bachans つづきクラブお仕事会)



《特別報告》 つづきクラブでは創立16年記念（2006.5.13）行事として、横浜北YMCA、つるみクラブとの三者懇親会を開催しました。クラブの5月例会に引き続いて行われた懇親会は、久しぶりの対面での会食会ということでもあり、横浜北YMCAの若いスタッフや運営委員会メンバーも参加してにぎやかな雰囲気にも包まれました。

《つづきクラブ5月度例会》

日時：2022年5月27日(金) 18:00～（対面形式）

会場：敦煌（菊名）

出席者：相賀、今城T・H、岡田、鴨下、鈴木S・K、
辻Ts・Ta、林S、横田

ゲスト：大野君枝さん、ピジター：なし（計12名）

司会：今城高之 受付・報告：今城宏子、相賀昇

～議事次第～

1. 辻会長による開会点鐘に引き続き、ワイズソング・ワイズの信条を一同で唱和
2. 相賀チャプレンによる今月の聖句(ヨハネ10・9, 11)と祈祷
3. 会長挨拶
コロナ禍にあってなお正しく恐れる必要がある。しかし「精神的な健康には有意義な仲間との活動が一番の薬です」(ウルリック・ラウリドセン委員長)と示されたように私たちも励みたい。
4. 協議・確認事項
 - 1)大野君枝さん入会の件
5月度事務例会にて正式承認となった。6/24本例会で入会式開催。立ち合い人は若木一美部長、鈴木事業主査、辻孝子さん（紹介者）。なお大野さんご本人から抱負や趣味なども含めご挨拶があった。
 - 2)クラブ会則最終版の件
内容は変わらないが、フォントを大きくして読みやすいようにした。

5. 報告・アピール

1)辻会長より：治療の関係で代議員会欠席につき、若木部長に委任状を提出した。同じ理由から部研修会も欠席、会員総会は遅れて参加予定。

2)アピール

林茂博さんより：林理子さんの近日中のご入院・手術および今後の予想についてご説明があった。その際、諸般の事情からクラブ退会もやむなしとのご見解も伺った。

6. ハッピーバースデー

鈴木 茂さん（5/21）

7. 行事予定

5月27日(金)17:00～北Y／鶴見クラブ／つづきクラブ三者合同懇親会（「敦煌」）

5月28日(土)横浜YMCA会員総会

6月4日(土)9:30～11:30代議員会

6月4-5日(土 13:00～17:00、日 9:00～12:20)

東日本区大会（Zoom）

6月7日(火)19:00～第93回Y-Y協議会

6月14日(火)事務例会17:00～夢カフェ

6月24日(金)17:00～本例会(7月総会資料審議・

大野さん入会式)、かけはし都筑／ハイブリッド方式、

6月25日(土)第3回部評議会(オンライン)15:00～

《三者懇親会》

日時:5月27日(金) 19:00～

場所:敦煌(菊名)

横浜つづきクラブ創立16年記念行事として、5月度例会に引き続き、日頃より深く交わりのある横浜北YMCAのスタッフ並びに運営委員会メンバー、横浜つるみクラブメンバーとの三者懇親会を開催しました。(参加29名)

横浜北YMCA運営委員長鈴木茂さん（つづきクラブ）の乾杯の音頭で始まった会は、コロナ禍で、ここ3年ばかりは対面の懇親会など開催してこなかったこともあり、参加者一同大いに交流を楽しみ、また心より再会を喜び合いました。各団体の参加メンバー紹介では、新たに北YMCAに入職したスタッフも紹介され、大いに盛り上がりました。途中、2021年度の横浜北YMCA運営委員で、

この度退任された大和堯子さんへ北YMCAより感謝状が贈呈され、ご奉仕をねぎらいました。最後には長年北YMCAの運営委員を勤められた茂木信さんの閉会后挨拶があり、美味しい中華料理を頂きながらの楽しい懇親のひとは幕を閉じました。(TI記)



《湘南・沖縄部 研修会 報告》

鈴木 茂

日時 : 2022年5月28日 (土) 10:00~12:00

会場 : 横浜市舞岡地区センター

(横浜YMCA指定管理施設)

出席者 : 21名 (つづきクラブからの出席者 : 鈴木 茂)

内容 : 【第1部】

講演会 テーマ:「法人化で目指すこと」

講師・田口 努 日本YMCA同盟総主事

【第2部】 指定管理施設見学

第1部講演概要

ワイズメンズ国際協会・東日本区は、2021年6月に開催された代議員会で、任意団体から法人組織へ移行することを正式に決議し、「一般社団法人」となった。そこで法人化にあたり、横浜YMCAにおいて財団法人・学校法人・社会福祉法人、NPO法人等の経営トップとして法人運営に精通しておられる前横浜YMCA総主事の田口 努氏を講師としてお招きして、ワイズにおける法人化の留意点等についてお話を伺った。

最初に、若木湘南・沖縄部長から予め講師宛に送られていた東日本区における法人化検討の経緯や法人化の

意義に関するパワーポイント資料に基づき、東日本区がこの10年来、YMCAのサービスクラブとして相応しく、且つ社会的・制度的にも認知された組織を確立すべく、法人化への検討を進めてきたことに、講師より改めて感謝と敬意を表したいとのお挨拶があった。

YMCAが財団法人をはじめ、学校法人や社会福祉法人を設立した背景には、それぞれの時代において目指す事業に進出するために、法律で要求された法人を設立せざるを得なかったという事情が大きく、法人化を目指すことは自明であったが、ワイズの一般社団法人は幅広い活動分野が可能であり、YMCAのパートナーとして多角的な活動に取り組んでほしいとの期待が述べられた。その一つとして、今日本YMCA同盟が取り組んでいるウクライナ避難民の受け入れ支援活動は、避難民の増加により今後ますますニーズが高まる情勢にあるので、YMCAでもその対応を検討中であるが、ぜひワイズの協力を仰ぎたいとの希望表明があった。

講演終了後、筆者は当日午後、聖光学園講堂で予定されていた横浜YMCA会員総会の準備のため退席し、第2部の施設見学には参加できなかった。 (完)

北Y便利

横浜北YMCA健康教育部 森山 真治



現在、横浜YMCAでは、子ども達の心と身体の健やかな成長と家族の健康を考える「ヘルシーキッズ&ファミリーキャンペーン」を6月末まで実施しています。

6月5日(日)は、「怒らないコーチング・怒らない子育て」というテーマで、バレーボール元全日本代表、益子直美さん、子ども達が主役のサッカー大会を開催している一般社団法人伊勢原FCフォレスト代表理事の一場哲宏さん、元大阪YMCAのスタッフで複数のリーグクラブの育成部、アカデミーのコーチを歴任してきた池上正さんをYMCAにお迎えし、パネルディスカッションを湘南とつかYMCAで開催しました。

近年、スポーツの現場では勝利至上主義による行き過ぎた指導が問題となっています。パネルディスカッションでは、ご自身の体験談や現在の活動を通して感じていることを伺いました。「子ども達を怒る時は、大人の思い通りにならないことが発生したとき」、「怒られることでのメリットはひとつもなく、デメリットだけである」、「怒ると叱るは同じこと、怒らないことで子ども達の主体性や自主性が育まれる」ことなど、怒ることがいかに子どもの成長に望ましくないかということを学ぶことができました。

私が、2001年に北米YMCAの研修に参加した時、あるYMCAの壁面に、キャンプファイヤーを中心にリーダーとメンバーが左右に座り話しをしている様子の絵が描かれていました。タイトルは、「お互いに尊敬心を持って関わることで良い

人間関係が築かれる」という内容の言葉が書かれていました。

これからの、子ども達との関わりの中で、子どもと同じ目線に立ち、尊敬心を持って関わることで、良い人間関係を築き、このことが子どもから家族に、家族から地域に広がり、平和な社会を築いていくことに繋がるよう、これからの活動を行っていきたいと思います。



湘南とつかYMCAでのセミナー風景

《2021-22年度 6月度事務例会報告》

報告 鈴木 茂

日時：2022年6月14日（火）17:00～18:45

場所：夢カフェ

出席者：今城H・T、岡田、鴨下、鈴木K・S、
辻Ta・Tu、林、横田（合計10名）

【議事次第】

開会点鐘・黙祷

辻 会長

会長挨拶

昨年7月、会長就任と時を同じくして透析治療が始まり、会長職を遂行できるか危ぶまれた時もあったが、何とかこの1年間、任務を全うすることができたことを感謝したい。

1. 協議事項

1) 7月クラブ総会資料の件

「2021-2022年度クラブ活動報告」

辻会長は、別紙の“2021-2022年度を振り返って”に基づき、今年度のクラブ活動報告を行なった。

「2021-2022年度クラブ会計決算見込報告」

横田会計は、別紙の「2021-2022年度決算見込」に基づき、今年度のクラブ決算見込を説明した。

* 質疑応答を経て、上記クラブ活動報告及び会計決算見込報告が承認された。

2) 林 茂博ワイズ退会申出及び次期会長の件

今般、林 茂博さんからご家庭のご事情により、クラブ退会の申し出があった。

●出席者全員で慰留をお願いしたが、ご本人のご意思が固く、退会が了承された。

●林 茂博さんは、当クラブの生みの親であり、その功績が極めて大きいので、たとえ会員ではなくても、理子夫人と共に名誉顧問または会友等として、当クラブとの繋がりを継続して下さるようお願いした。

●次期会長予定であった林 茂博さんの退会に伴い、次期副会長の今城高之さんを次期会長に選任することを協議し、決議した。

3) 胡麻尻眞佐ワイズの件

辻会長から、本日欠席の胡麻尻眞佐さんに関し、ご年齢及びご体調を勘案し、功労会員に推薦したいとの提案があり、承認された。早速、区への手続きを執ることとする。会費は半額に減免。

4) 辻 孝子功労会員の件

辻 孝子功労会員より、ご体調が回復傾向にあるとして、功労会員から一般会員へ復帰したいとお申し出があり、出席者全員大歓迎にてお申し出を承認。

5) 「スマホサイト『動画で分かるワイズメンズクラブ』カード

のアンケート」の件

●辻会長から、区の“Change!2022推進委員会”から今般要請のあったアンケートに関し、クラブ内の会員の意見を集約し、クラブとして回答したいとの提案があり、アンケートの回答を各項目別に確認した。

2. 報告事項

①クラブ

●今城H：三木直子さんは現在休会中であるが、ご体調にややご回復の様子も見られるので、功労会員への移行を打診してみたい。

②湘南・沖縄部

●鈴木S：さる5月28日（土）、湘南・沖縄部研修会が横浜舞岡地区センター（横浜YMCA指定管理施設）で開催された。

●内容 第1部

講演会 テーマ「法人化で目指すこと」、

講師 田口 努（日本YMCA同盟総主事）、
第2部 指定管理施設見学。

③東日本区

●辻会長：東日本区大会が去る6月4～5（土・日）100%ズームで開催された。

●辻会長：ワイズ・ナイトフォーラム第6回・6/25（土）20:00～22:00

④YMCA

●鴨下館長：5月27日（金）に開催されたつづき・つるみ・北Y三者合同懇親会は、盛会裏に開催できた。YMCAの立場からすると、開催時期は2月よりは、職員人事異動確定後の5月の方がありがたい。

3. アピール

* 今城H：6月28日（火）10:00より、みんなの家・「COCOの集い」で、映画鑑賞会（「ひまわり」）を開催する。

* 鈴木K：6月15日（水）13:30、夢カフェにおいてTKBによる「つばめの杜保育所」、「みやま荘」宛のお誕生日カード作りを行なう。

4. 行事予定

・6/24（金）17:00～：本例会（かけはし都筑）
大野君枝さん入会式

・6/25（土）14:00～：第3回部評議会

・7/12（火）17:00：事務例会（田園都筑教会）

・7/22（金）17:00：クラブ総会（@かけはし）

5. 閉会点鐘

辻会長

【新入会員ご紹介】 入会も決まり、6月のクラブ例会（6月24日）で入会式が行われる大野君枝さんより自己紹介文をいただきました。待ちに待った新入会者が与えられ、クラブメンバー大いに喜んでます。大野君枝さんが、のびのびとクラブライフをエンジョイして下さることを期待しています。



大野 君枝

初めまして。6月から入会を許されました大野君枝と申します。趣味は旅行とゴルフです。クラブについては辻剛、孝子ご夫妻からレクチャーを頂いておりますが、まだ五

里霧中の状態で私に何が出来るのかと不安の中におります。ただ「ワイズの信条」を目標にして行けたら良いのかなとだけ思っている状況です。今回履歴書をとわれまして74年を生きてきましたのにこれといって特記することもなく大変とまどっております。

私は3人姉妹の真ん中で港区の旧白金三光町という所で生まれました。今でこそ流行りの街になっていますが、当時は学校と病院ばかりで夜は暗くて変化の少ない町でした。最初の奉仕活動は高校生の頃、「青少年奉仕団」に加入して、盛んになってきた日赤献血運動の応援や実践。そして日曜日には上野動物公園で迷子の受付をしました。大泣きの迷子達が沢山集まって来て現場はてんてこ舞でしたが、とても懐かしい思い出です。

結婚後は大磯に。その後、夫の転勤等で香川県高松市を皮切りに、東京、埼玉、横浜、仙台と転居し、そして再

度横浜市に戻って参りました。その間娘も生まれ、何処も楽しい思い出ばかりなのですが、高松市にてルーテル福音教会のR・カニンハム宣教師ご夫妻に出会わせて頂いたことが私の人生のターニングポイントになりました。

28歳で受洗。しかしクリスチャンとして白紙の状態だった私は、ご夫妻からすべてを学ばせて頂きました。私達は神様にどれほど愛されているか、どんな時も決して見放されることはないと繰り返し話されて、隣人を愛す心を大切にと教えて下さいました。現在95歳になられる夫人は、今も米国より一人暮らしの私を励まし続けて下さっています。おかげで何処にいても守られている実感が与えられ迷うことなく歩いていくことが出来ました。

今、世の中で窮地に陥っている人々はどれだけの数でしょうか。暗いニュースが飛び交っている毎日で、何も出来ないことに心が痛いです。私には残された時間はもう少ないですし力もありません。以前に海外から来た子供達に漢字を教える小さなご奉仕をさせて頂いていましたがコロナ禍で休会になりとても残念です。それでも私は今までに数えきれないくらいの『愛』を頂いてきましたのでその感謝を少しでも世の中にお返しが出来たらと、そう願って入会を希望いたしました。メンバーの皆様のご指導を賜りたくこれからどうぞ宜しくお願いいたします。



会長の本欄より 辻 剛

「わたしたちの業種では、結婚している女性は少なく、子どもがいる人は更に少ない。妊娠するのは、故郷にいる大学時代の友人みたいに“普通の”仕事をしている人間だけだ。（中略）

私は母親としての務めと、カメラマンとしての務めとのあいだで、不完全ではありながらも必死にバランスを取ろうとがいていた。（中略）

わたしは戦争が死を意味するのだということを一ジャーナリストも戦争で命を落とす可能性があるのだということを、理解していなかった。（中略）

（わたしたちはリビアで拉致され死を覚悟した。）「私はもうこれで終わりにする」、仲間の男性カメラマンがきっぱり言った。「戦場はもう終わりだ。これ以上は続けられない。妻をもうこんな目には遭わせられない。（中略）

わたしは遺された家族のことを思うと胸が痛んだが、それでもやはり、常に身近にあるこの仕事から、はなれることはできなかった。出産して3ヶ月後わたしは旅を再開した。息子のそばにいられないことは、これまで経験したことのないほど

の辛さだった。（中略）

出産後の最初の一年に、わたしはモーリタリア、ジンバブエ、シエラレオネ、インドへと撮影にでかけた。それぞれの仕事の合間には息子と過ごす大切な時間を挟んで音楽のクラスにつれていき、わたしはこれ以上ないほどかけ離れた二つの世界をまたいで立っていた。戦場ジャーナリストとして、母として、わたしは二つの異なる現実を生きられるようになった。平和に暮らし、戦争を目撃することを選んだのだ一人間の最悪の行いを経験しながら、美しさを忘れずにいることを。」（『愛は戦禍をかけぬけて 報道カメラマンとして、女として、母として』KADOKAWA, 2016年刊）

ピューリッツァー賞を受賞した米国人戦場写真家リンジー・アダリオは、戦争を闘争としてではなく、女性や子どもなど犠牲者の立場から伝える達人といわれている。幼い子どもを育てながら戦場カメラマンとして生きる彼女には読み応えのある自伝があるが、わたしは彼女が常に死と隣り合わせている仕事と夫と幼い息子のいる家庭をどうやって両立させるつもりなのか読みながら考えていた。そんなことを考えながら彼女の思いをプロットしていったら上記のような流れになった。でも自分としては納得したわけではなく、もしかしたら戦場カメラマンは麻薬のようなものでは・・・？

《連載寄稿》

恥ずかしのワイン蘊蓄 ～9～

横田 孝久

小生の乏しい日本ワインについての蘊蓄は飲んだ経験があまりないので中途半端になった感がありました。5月号はロシアの侵攻がありましたので急遽ウクライナ等のワイン事情を寄稿しましたが本来はこの寄稿が5月号でした。コロナは少し落ち着きが出てきたように思いますが自己管理がやはり重要です。

そんな中、ワイフの夕飯作りのキッチンを覗き、今夕は日本酒よりワインだなと思って買い置きのハウスワインを早めに抜栓してテーブルの端に置いておきます。小一時間経つとそれなりに開いてくれて飲み頃になっています。以前に寄稿した折、2日目が美味いと書きました。ビンテージの早いワインは特にそうです。レストランの華やかなところでサービスを受けながら飲むワインもいいのですが、家での気楽で自由で一人（ワイフはアルコールは一切ダメ）での飲みは小生は好きです。

よく「日本の食卓にはどのようなワインが合いますか」などの質問があつたりしますが、その時飲みたいと思うワインを飲めばいいことだけとっています。

自分で買うワインなので、値段の心配をする必要もない。財布にあったワインを選べばいい。もちろんワインに合わせて特別な料理を作ってほしいなどと云う必要などない。普通に食べているもので十分です。ビールを飲むかわりに、ワインを飲むだけです。足りなければ冷蔵庫からチーズを出してきて、もう少しワインを飲む。

小生も現役の頃はずいぶん色々な場所でワインを飲んできました。自宅、友人宅、フランス料理屋、イタ飯屋、料亭、鮎屋、居酒屋、飛行機の中、ホテルのバーなどです。しかし、いつも同じことの繰り返しで、最初の一口の心地よい思いと驚き、そして徐々にほぐれていく時間、楽しく過ぎていく一時、また、心地よく満ち足りた食後の倦怠感。それはワインよりも一人の時、友達や仕事などで過ごした時間の愛おしさが今でも記憶しています。

ある人が言っていました、ワインが主役になった夕べもあつたが、意外に記憶に残っていない。やはりワインは自分にとっては豊かで幸せな時間を贈ってくれる貴重な脇役なのかもしれない。

今回はアペリティブ(食前酒aperitif)について小生のつたない知識ですが述べたいと思いました。

若い頃にちょっと気取ったフランス料理店に行くとテーブルに

着席する前にロビーかサロンのようなところで「アペリティブは何になさいますか？」と尋ねられました。初めの頃は何だなんだとおどおどしたものです。しかし慣れてくるとそんな仰々しいことではなく日本でもどこでもある普通の場合であることに気づきました。それは準備体操なのだと、仕事などからの時間から食事の時間に入る前に一息つく時間です。待ち合わせなどの前に、喫茶店に入ったりして待つというのと同じです。しかし、唯一の違いはアルコールが入るので、少し寛ぐということです。カクテルでもシェリー酒でもワインでも何でもいい。小生はペペおじさんや 極ドライ・マティニーが好きですが、気取った人や場ではシャンパンを飲みます。つまむものはナッツ、生ハムやカナッペなど軽いものでいいのです。その後すぐにディナーが待っているのですから。しかもワインがお出まします。そんなに気取らなくても日本には「ちよい飲み」という立派なアペリティブ・タイムがあります。ついでに若い頃はデザートに深夜帰宅まえにビールとラーメンなんて事もありました。居酒屋でも料理屋でも最初にまずビールで乾杯して枝豆や冷ややっこなど極かるい肴で場を作ります、そしてメインの鍋や魚・肉料理へと移ります。その枝豆タイムがアペリティブ・タイムと思えばなんのことはありません。

さあー、家飲みでも冷蔵庫やセラーなどを覗き、夕べの一時を楽しめる人生であらんことを切に望みます。今回はたわいのない話ですみません。また逢う日（次号？）まで。

(2022・6)

〇〇〇編集後記〇〇〇
 ▽いよいよワイズの年度末となりました。この一年間、クラブメンバー、読者の皆様に支えられて毎月欠かさことなくブリテンを発刊出来たことに感謝しています▽先の例会でのご挨拶にもありました。が、新年度の始まりと共に透折を始めることになりましたが常にリーダーシップを発揮して下さいました。また、ご自身も体調不良を抱えておられながら会長を支えられた辻孝子ワイズの頑張りにも敬意を表します。お疲れさまでした▽5月の例会に併催した横浜北Y、つるみクラブとの懇親会は本当に久しぶりで、ワイズの喜びを満喫しました。早くこれが日常になるよう願っています。(編集子)



5月のデータ

例会出席	12名	在籍会員数	16名	各種記録	5月実績	年度累計
メンバー	11名	月間出席者数	11名	スマイル	0	13,000円
ビジター	0名	メ-キップ	1名	—	—	—
ゲスト	1名	月間出席率	75%	—	—	—